

# 私利私欲では、職場・権利は守れない!

## 日刊 勤労千葉

80.7.18

No. 485

### 国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五(六)八(公衆)三三〇七

## 5510合理化、563ジェット輸送延長、35万人体制協力で職場と仲間を売りわたす「業務再開」路線粉碎!

\*\*\*\*\*  
「俺は『本部』につくつもりは毛頭ないし、組合費納めろってきたって払うつもりもない。それが本当だとしたらまるでサギ師だ」——自分の知らないうちにいつの間にか、勝手に『本部派組合員』にデッチ上げられている事を知った当の「佐倉八十四名」のうちの大半の仲間が激しい怒りをこめて語るこの言葉は、土屋のベテンをくらった「当事者」たちの大半の声を代表している。これが「本部」反動分子が二度にわたって「再建支部」デッチ上げ策動が粉碎され、内部分裂とゆきづまりに達し、ベテン的にデッチ上げた業務再開の「組織」——「佐倉支部八十四名」なる内実である。土屋は、「東京の松崎さんは、俺らを『佐倉の親分』とって下にも置かずもてなしてくれ」と語っているように、佐倉の職場と仲間の真の利益を守ろうとしているのではなく、佐倉を分裂させ私利私欲のみを追求する金権体質丸出しの裏切り分子なのだ。  
\*\*\*\*\*

『日刊・七月三日号』で報告のように、五月二十七日当局が提案してきた「五五・一〇ダイ改」は、三十五万人合理化の初年度攻撃である。

それは、国鉄労働運動・労働者にとって死活をかけた闘いならざるをえないのだ。  
佐倉に於ても「機関士十五名減・検修四名減」を内容とする激しい攻撃としてある。われわれは総力をあげて、これを粉碎し、職場を守りぬかねばならない。

ところが、土屋がチャチなベテンを使ってまで「業務再開」対当局との交渉開始」を策動しているデッチ上げ自称「(本部派)支部」なるものは、完全に、「五五・一〇人員削減大合理化」攻撃を受け入れ、佐倉の仲間を売りわたし、「五六・三」のジェット燃料暫定貨車輸送期限切れ後も当局・公団の意のままに「燃料安定輸送」にまい進するという、文字通り完全な「佐倉第二御用組合」のデッチ上げ攻撃を開始したことを意味している。

### 機関区労働者を売り渡す「本部」方針

土屋がかかっている方向とは一体何か? 即ち『本部』反動分子のとっている路線とは一体何か?  
第一に、合理化を認め、運転職場の闘いを禁圧する「貨物安定輸送宣言」路線。  
第二に、「乗務員運用合理化」に卒先して協力

し労働強化を全乗務員に押しつけることとひきかえに、東北・上越新幹線への「送りこみ」策動。  
第三に、『本部』反動分子の一貫した三里塚敵対「ジェット安定輸送方針」。

土屋の自称「(本部派)支部」には、全く何の権能もない!

更に最も重要な事は、土屋による自称「(本部派)佐倉支部」はいかなる規約規則に照らしても全くのユウレイ組織である。  
規約規則と法律的手続を厳密に経て誕生し、一貫して支部業務を継承・遂行してきている堀口佐倉支部執行委員長を先頭とする「勤労千葉佐倉支部」のみが唯一、対当局交渉権をはじめとする一切の権能を有している事は誰の眼にも明らかである。

全ての組合員の皆さん。とりわけ勝手に「本部派組合員」にされている佐倉の仲間の皆さん、土屋と「本部」反動分子・当局のサギ的策動とその悪質な攻撃を弾劾し、「勤労千葉佐倉支部」の旗のもとに佐倉の一致団結を強化し、自らの権利と職場を守る闘いへといまこそまい進しようではないか。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!

